

令和2年度 地域ぐるみで体験の風をおこそう事業
「わかさ de うみ活①」(R2.8.22(土))



体験の風をおこそう

わかさ de うみ活① 日帰りのみ

8月22日(土) 9:30~15:30

参加費 一人あたり100円

応募締切 8月14日(金) 17:00

対象：海で遊んでみたいご家族(日帰り 27家族)
※お子様だけの申し込みはできません。また、申込多数の場合は抽選となります。
※準備・後片付けのため、前泊及び後泊はできません。

プログラム
・やさしいスノーケリング
・磯観察・磯遊び
・磯釣り

主催：若狭の海湖山から
「体験の風をおこそう」運動
推進実行委員会
(事務局：国立若狭湾青少年自然の家)

後援：福井県教育委員会(申請中)
小浜市教育委員会(申請中)

問合せ先：
若狭の海湖山から「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会
事務局(独) 国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家
担当：伊藤(いとう)、吉田(よしだ)
〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜
電話：0770-54-3100/FAX：0770-54-3023
Mail：wakasawan-seni@niye.go.jp

◆目的

- 家族と一緒に活動しながら、海の魅力や面白さを感じてもらう。
- 自然の音を聞きながら、夏の若狭湾を感じ、自然の素晴らしさを知ってもらう。
- 自然体験の経験が少ない家族に、その楽しさやおもしろさを伝える。
- 新型コロナウイルス感染防止対策をし、安全で安心して体験してもらう。

◆参加実績

参加	24家族	84人
	(キャンセル)	3家族
① 未就学児		14人
小学生		27人
中学生		1人
保護者		42人

②地域別

福井県	14家族
滋賀県	7家族
京都府	1家族
大阪府	1家族
奈良県	1家族



◆プログラム<日帰り>

- ① 受付
 - 職員は、コロナ対策をして参加者を受け入れる
 - 参加者は、受付後、宿泊室で準備をしてつどいの広場に集合
- ② はじまりのつどい
 - 所長のあいさつ、活動の流れを説明
- ③ 海活動体験①「やさしいスノーケリング」「磯観察・磯遊び」「磯釣り」
- ④ 昼食 持参弁当を広場などで食事
- ⑤ 海活動体験②やさしいスノーケリング」「磯観察・磯遊び」「磯釣り」
- ⑥ 活動ごとに終了、流れ解散



◆成果

- ・満足と答えた家族が16組(94.1%)、やや満足と答えた家族が1組(5.9%)となり、事業としては目標が達成できた。
- ・アンケートから、この事業を知ったきっかけは、ホームページが58.8%と半数を占めた。また、近隣の施設に配置したチラシを見た家族が11.8%と次点となり、ホームページで申し込む家族が増えてきていると感じられる。
- ・あわしまリパークの白井先生や専門学生に、講師や指導支援をしていただいた。参加者の方も、貴重な体験だったと感想があった。
白井先生とコロナ対策をメールや電話でやり取りしながら、事業の本番を迎えることができた。参加者の皆さんも安全で安心して海の生き物に興味を活動してもらえた。



◆参加者の声

- とても楽しかったです。子供だけでなく、親も楽しめました。
- スノーケリングがとても楽しかったです。魚の名前や、海のことなど、子供にわかりやすく、丁寧に説明していただきました。実際に見て、触れることで、子供達の海の生き物への興味がより一層深まりました。貴重な体験ありがとうございました。
- 小1息子は二時間かけて初めて自分の力でフグを一匹釣り上げる事が出来とても誇らしげにしていました。
- 海がとてもきれいで感動した。生き物もたくさんいて、子供よりも大人が夢中になりました。
- 磯観察では、岩にひっついた貝の取り方を教わりとてもびっくりしました。この事業に参加しなければ生涯知ることがなかったと思います。貴重な体験ありがとうございました。
- 磯観察に参加しました海といえば泳ぎに行くのが目的になり、こんなにゆっくり観察した事がなかったなあと思いました。後からの説明もとても良かったです。楽しめました。
- 我が子達にとって初めてのスノーケリング(お風呂で毎日練習していました)も キュウセンやソラスズメダイ、ウニやサザエなど水族館ではなく自然中で観察出来たことそして、あわしまリパークの先生の解説を直接聞いた事等、夢のような時間でした。



◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 新型コロナ感染対策で、従来型から、日帰り型に変更した。また、他家族の接触を減らすため、参加者を絞った結果、広々とした環境の中、ゆったりと時間を過ごしてもらうことができた。
- ライフジャケットを新調した。参加者からは「身につけるものなので、綺麗でよかった。」「身体にぴったりフィットさせることでできていいと思いました。」「簡単に装着でき、股下にも紐があったので安全性もあるかと思いました。」などの意見があり、水辺の活動でのライフジャケット着用の重要性について普及することができた。
- 海の活動体験を行う際に、どうしても密になる場面が見られたので、職員が「間隔をあけてください」と声をかけることも大事だった。
- 事業をどの媒体で知ったのかを、参加者に聞くのではなく、申込時に記入してもらえれば、より正確な数値が出るとおもった。
- 家族が同じ活動するのが難しい場合もあり、可能な活動方法を提示していると、参加者が動きやすかったと思う。
- 事前に、ライフジャケットサイズを職員に周知徹底する必要があった。



◆事業運営費

合計 379,481円

指導支援費(講師代)	131,258円
貸切バス代	222,570円
磯釣りエサ代	21,360円
クリアマスクシールド(コロナ対策)	4,125円
郵送代	168円